

NSG

GROUP

NSGグループ 通期業績予想の修正と来期方針について

不採算事業からの撤退と縮小

- 2016年3月期第2四半期(FY16Q2)発表の業績下振れの主要因でもあったディスプレイ事業と、中国を中心とする新興国事業につき、その後も市場環境の悪化が止まらない状況に鑑み、当面損益改善が見込めないと判断。

不採算事業からの撤退(中国型板ガラス工場の閉鎖)、縮小(ベトナムのUFFラインの一時休止)を実施し、業績回復の遅れの原因に速やかに対応し、2017年3月期(FY17)業績回復と本格的な黒字化へ大きく舵きりしたいもの。

- 上記2件のリストラクチャリング費用は軽微。

来期での本格的な黒字化を確実に

中国を中心とする新興国事業での減損

- 不採算の中国型板ガラス工場の閉鎖による減損等（約75億円）
- 加えて、新興国状況の悪化に鑑み、中国JV他及び南米OE関連暖簾の減損（約150億円）。
結果として将来の業績下振れリスクは低減。
- ディスプレイ事業の減損、繰延税金資産の取崩等（約120億円）
- 個別開示項目での資産流動化案件契約の来期への延期（約80億円）と併せ、
- 結果として、FY16の通期業績予想を下方修正。
最終損益で△75億円より△500億円へ425億円の損益下方修正。

※上記は想定数値であり、監査前のものです。

償却前営業利益の年間予想270億円は維持

来期業績への効果

- 以上ディスプレイ事業と中国型板ガラス事業のリストラチャリングにより、現状営業損失を出している事業をなくし、更に悪化する新興国まわりの事業に係るバランスシートのクリーンアップ。
- FY17以降業績下振れへの歯止めを含めて損益改善を図り、FY17の最終利益黒字化をより確実性高いものにする。

(増益効果規模は、税引前利益段階で年間約60億円)

FY17の業績反転に万全を期す

来期計画・方針について

- FY17については今期における不採算事業の整理と減損処理により、業績改善を阻む要因の相当部分が排除され、今後、
 1. より業績進展できる好調な事業分野(いわゆるVA戦略実現中)の維持(北米建築、ベトナムソーラー、日本Auto)
 2. 業績改善できる課題の事業分野(いわゆるVA戦略取込/展開中)の改善により(欧州建築・Auto、北米Auto、日本建築)、
 3. 営業損益ラインで今期見込より確実に業績改善を目指し、JV関連持分法損益でも一定の損益改善を図るべく予算策定、
- 5月の決算発表時に来年通期予想としてご説明の予定。VA戦略には変更なし。併せて5月には中計進捗についてもご説明。
- VA戦略: イノベーション強化(新組成超薄板、自動車分野、薄膜ソーラー等) → 将来の成長に向けたR&Dも着実に強化。

VA戦略に変更なし。より加速

来期計画・方針について(2)

- 主力銀行からは引き続きご支援いただけるとの表明をいただいている。
- 以上、来期以降において、1日も早い復配も含めて、①安定した黒字化と、②営業利益改善とその他キャッシュ抑制策により一定の年間キャッシュ創出による債務額削減を実現できる財務体質を、確実に作り上げ、早期に中計で目指すサステナブルな財務体質に近づけていきたいもの。経営としては来期会社一丸となって不退転の覚悟で臨む。
- もちろん、経営陣としては今般の事態に至る責任は極めて重く受け止めており、報酬返上等の措置を行う。併せて、本社等のコストベースについては不断に見直していく。

会社一丸となって取り組む不退転の覚悟

当資料中には、将来の当社の業績・当社を取り巻く環境に対する予想の部分があります。これは当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績・環境は見通しと異なる可能性があります。

日本板硝子株式会社

NSG

GROUP